

令和5年度 心の教育推進プラン

諫早市立小野中学校

1 本校生徒の現状と課題

本校生徒は、素直で素朴な生徒が多い。また地域行事での小中学生の交流も多く、比較的男女の仲がよい。しかしながら小学校1校からの進学で、交友関係がすでに構築されているため、相手の思いや立場を考えず時折不用意な言動が見られる。また、小学校からの人間関係を引きずったまま中学校でも不登校傾向に陥る生徒も若干名存在している。近年、より良い人間関係の構築を目指し、生徒会を中心に「朝のあいさつ運動・立ち止まりあいさつ」などを進めてきた結果、自ら挨拶をする生徒が増え、地域の方に褒めていただく機会があるなど、徐々にその効果が表れつつある。各行事においてもリーダーの生徒が表に立ち、前向きに取り組む校風が根付いてきた。これらの現状を踏まえ、小野中生としての自覚や将来に夢を持てる生徒の育成を目指し、教育活動のカリキュラム・マネジメントを的確に推進することで、それぞれの生徒に自信と心の安定をもたらし、進路保障と地域の担い手となる意識を醸成することができる。さらに一人一人がより良い人間関係を築き、自己肯定感を持って学校生活を送るためには、①基本的な生活習慣（挨拶・返事等）の定着、②日々達成感のある授業による学力向上、③道徳教育および人権教育の推進による心の教育が、本校が取り組むべき3つの課題である。

2 道徳の授業や短学活等での取組

- (1) 体験活動および特別活動を始めとした各教科等と道徳の時間との関連的指導の工夫
- (2) 「特別の教科 道徳」の主旨に基づいた議論する道徳に向けた積極的な取組
- (3) 体験活動を柱とした特別活動、総合的な学習の時間等と道徳のクロスカリキュラムの実施
- (4) 各学年で扱った道徳の資料の共有と本校生徒の実態に合った資料の作成とその有効活用
- (5) 全学級「道徳」の公開授業の実施
- (6) 帰りの学活時の「黙想」の実施

3 教科等での取組

- (1) 「授業のきまり」（学習規律）の実践
- (2) 各教科において、「確かな学力」を身につけた生徒の育成につなげるために、3つの「きく力」を伸ばす授業の実践（3つの「きく力」…「正確に聞く」「考えながら聴く」「比較しながら訊く」）
- (3) 各教科・各授業における「めあて」の明確化と、「まとめ」で振り返る、わかる授業の実践
- (4) 「思考を深める発問」にこだわる授業の実践
- (5) 小・中9か年の連携を意識したカリキュラム・マネジメントの実践

4 行事等での取組

- (1) 教育講演会の実施（キャリア教育・性教育・薬物乱用防止・喫煙防止）
- (2) いじめ根絶集会・平和集会・人権集会の実施
- (3) 生徒会による専門委員会報告会（生徒会集会）
- (4) 教育相談の実施（各学期1回）

5 家庭学習の充実

- (1) 家庭学習のアドバイス（5教科）を一覧にしたもの（家庭学習の手引き）を配布・説明し、テスト前の勉強や自主学習のやり方を明確にしている。
- (2) 学級担任との「やりとり帳」を活用して、毎日の家庭学習の内容・時間を記録し視覚化することで、自主学習への意欲を高めることにつなげている。

6 その他

- (1) スクールカウンセラー・心の相談員・図書館運営支援員の有効活用
- (2) 中1ギャップ改善のための、アンケートとSCや心の相談員との面談の実施
- (3) 生徒会活動を中心としたボランティア活動の実施
- (4) 地区生徒会を中心に、地域行事への積極的な参加による地域住民との交流促進